

平成 28 年度「中学生ふるさと民泊学習推進事業」実施報告書

周防大島町立安下庄中学校 第 2 学年（13 名）

平成 28 年 8 月 8 日～ 8 月 10 日 実施

1 活動のねらい

- 高齢者を中心とした地元住民との体験交流を通じて、お互いに思いやる心、信じ合う心を培う。
- 農漁業のやりがいや楽しさを学ぶとともに、「新鮮で安全な農作物・水産物の美味しさ、食の大切さ」についての理解を深める。
- 周防大島の魅力を再発見し、郷土愛を育む。

2 全体の指導計画 【主な活動地域名：周防大島町東和地区】

	期 間	活動の内容	時数
事前指導	6 月 7 日 6 月 22 日 7 月 5 日	○周防大島のよさとは ○周防大島のよさを伝える ○周防大島で民泊体験をした生徒の保護者の話の紹介、自己紹介カードの記入	5
実施	8 月 8 日～ 8 月 10 日	○漁業体験(漁船での海釣り) ○調理体験(魚のおろし方、茶がゆ作り) ○家業体験(食事の手伝い) ○農業体験(茶豆の皮むき) ○浴衣の着付け、お抹茶の作法体験	18
事後指導	9 月 2 日 10 月 24 日～ 10 月 28 日	○民泊振り返り・お礼状書き ○民泊壁新聞の作成	6

3 活動の展開

8 月 8 日（月）		8 月 9 日（火）		8 月 10 日（水）	
11:00	学校集合	8:00	起床・朝食・家業体験	8:00	起床・朝食・家業体験
11:30	入村式・対面式				
12:00	各民泊家庭へ移動 昼食・家業体験	12:00	昼食・家業体験	11:00 12:00	離村式 学校着
18:00	夕食・入浴・自主研修	18:00	夕食・入浴・自主研修		
22:00	就寝	22:00	就寝		

4 実施上の留意点

○ 指導上の留意点や工夫した内容等

民泊学習中に受入れ家庭や生徒同士の交流を深めるために、スマートフォン持参の禁止だけでなく、テレビや本など個人で楽しむものの使用をなるべく避けるよう助言した。

○ 評価における工夫や留意点

事前指導では、生徒の発言や発表の様子を観察した。自己紹介カードには、自分の個性が表れるように書くよう指導した。

民泊当日は、巡回時に生徒の様子を観察したり会話をしたりした。また、受入れ家庭の方々と会話をして生徒の様子を確認した。

事後指導では、活動の記録（民泊のしおり）や受入れ家庭への礼状の記述を読み、生徒が感じたことなどを把握した。

民泊のまとめでは、壁新聞を作成した。見た人が感動できるような内容であること、丁寧な字で記入すること、レイアウトなどにも工夫することなどを意識させた。



【事前学習】



【船釣り体験】



【お抹茶作法体験】

5 活動の成果と課題

(1) 成果と課題

○ 事前事後のアンケート調査結果の考察

初めて出会う生き物を触ることに抵抗を感じる生徒が多かったが、活動を通してできるようになったと回答する生徒がいた。全体的に、自然を守っていかないといけない、農漁業は大切な仕事であると感じる生徒が多い一方、生徒自身の成長に関するアンケート項目の結果には、活動前後であまり変化が見られなかった。

○ 児童生徒や学校等における教育的効果

生徒が地域に興味や関心をもつきっかけとなった。大島でずっと暮らしている生徒ばかりだが、未体験のことや、知らないことなども多くあり、今回の民泊学習で初めて魚を釣った…など、できないことができたという喜びを感じることができた。

○ 参加した児童生徒の感想

初めての体験が多く驚いたこともたくさんありました。釣り、たこ捕りなどが楽しかったです。これらの体験は大島だからこそできることだと思うので、僕は恵まれていると思います。自分が大島に住んでいながら、まだ知らないことがたくさんあると気づき、興味がわきました。

テングサ洗いがとても大変でしたが、この大変さのおかげで寒天がおいしくなるんだなと思いました。2泊3日を通してテングサが洗えるようになったり、魚釣りのやり方が分かるようになったりしました。郷土料理の茶がゆは、家庭によって味が違うことに気づきました。

● 指導上の課題点等

事前に民泊受入れ家庭との十分な連絡を取っていなかったため、生徒の活動の様子をあまり見ることができなかった。活動内容の一層の充実を図るためにも、前もって十分な打合せをしておく必要を感じた。

(2) 今後の改善点

役場の方が設定した打合せだけでなく、必要に応じて直接受入れ家庭と打合せを行い、農漁業体験どちらもさせてもらえるよう確認をする。